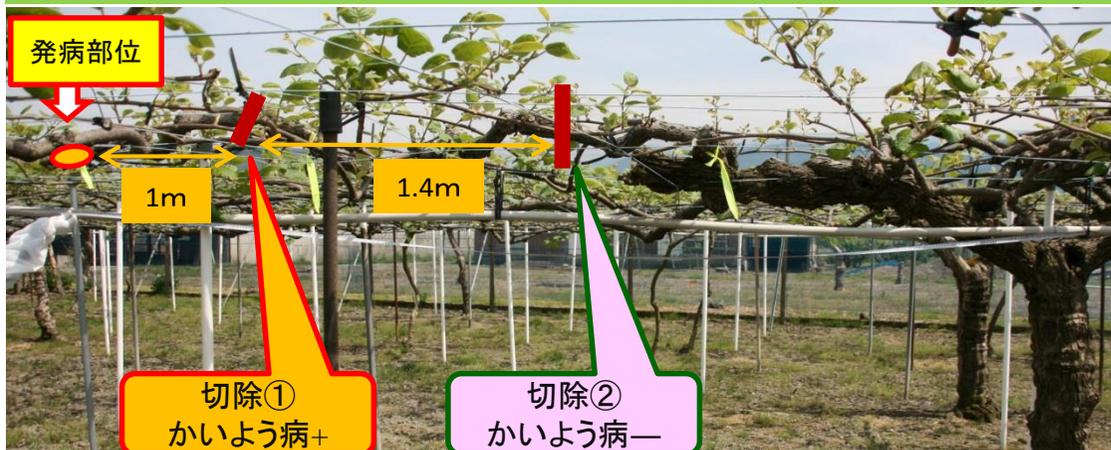


キウイフルーツかいよう病 (Psa3) に対する被害低減技術

ハイワードのPsa3発生園地では、生産維持のためには感染部位を除去しつつ極力収穫可能な枝を残す必要がある。このため発病部位(樹液漏出)を含む枝切除による被害低減効果を検討した。

発病部位(側枝)から主幹部に向かい

- ①1m切除、切断面を調査した結果、かいよう病陽性
- ②さらに1.4m先を切除した結果、切断部が陰性。



枝の切除事例(ハイワード30年生:A園地No.1樹)

切除後2年が経過したが、園地での新たな葉の発病及び樹液の発生もなく、切除の効果が認められた。

ハイワードでの切除試験事例

| 園地 | 樹No | 枝種 | 発病部位からの距離 (cm) | | | | | | | 葉の病斑 (調査時) | |
|----|-----|-------|----------------|----|----|----|-----|-----|-----|------------|-----|
| | | | 20 | 55 | 60 | 80 | 100 | 120 | 185 | | 240 |
| A | 1 | 主枝 | | | | | + | | | - | 無 |
| | 1-1 | 主枝 | | | | - | | | | | 無 |
| | 2 | 側枝 | + | | | | | - | | | 無 |
| B | 3 | 主枝・側枝 | | + | | | | | | - | 有 |
| | 4 | 側枝 | | | + | - | | | | | 無 |

1) 発病部位: 赤褐色の樹液漏出が認められる部位
 2) A,B園地とも今年初確認の園地
 3) 調査日: 赤色(+)が4/24, 黄色(-)が4/30

ハイワードでは、いずれも発病部位から一定以上(約1.2m以上)の切戻しでかいよう病の発病が抑えられる

薬剤防除と切除により園地内のかいよう病菌の密度低下で安心して栽培できる